

森林環境教育 上毛町立唐原小学校

大分県との県境の山国川沿いにある自然豊かな小学校、唐原小学校の1年生11名と2年生7名の子供たちとドングリ、マツボックリ、落ち葉、セミの抜け殻などを利用したクラフト作りを楽しみました。

入場から終了のあいさつまで、子供たちの元気のよい返事には参加したスタッフは皆びっくりしました。人数が少ないと先生の指導が隅々までゆき届くのかと思いました。

「森はどんなところかな？」の質問から始めましたところ、「一人でいると怖い」、「さびしいところ」と自然に接する機会の多い子供たちも森には良い印象がないように思えました。先生方に子供たちはトトロが好きであることを事前に聞いていたことより、「今日はトトロが棲む森をつくりましょう」と言った途端、ワイワイガアガヤの音が聞こえ、和やかな雰囲気になり、ノーズゲームに入りました。

「家の周りの作物を荒らす動物は何かな」の問いに対し、小さな声で「イノシシ?」、木の幹や葉を食べ尽くす動物は何かな」の問いに対しては、大きな声で「シカ」と答え、私達インストラクターとの距離は一気に縮まりました。クラフト作りのポイントと安全確保の説明でも子供たちは真剣に聞き入り、大きな声で「わかりました」との返事でクラフト作りを始めました。

班に分かれた子供たちはすぐに取り掛かることはなく、見本を見たりしながらじっくり構想を頭に描き、まずは台座、次にドングリ、赤い実、落ち葉などを取り、本格的な作品作りを始めました。その後、構想が絵になり始めた頃には、私達インストラクター、先生、県庁の大神さんは大忙し。ズボンを引っ張られ、「これでいいかな」、「この小さい赤い実をつけて」などと求められ、この寒さの中でも、額の汗を拭くことになりました。

終了後、子供たちに今日の感想を聞いたり、自分の大作を前に先生や私達インストラクターに出来映えを話したりし、振り返りを行い終了しました。火傷もなく、無事に終わることができました。



(スタッフ：野見山、赤松、中村)